

2023
活動報告書



福島
子ども・
こらっせ
神奈川



4年ぶりに山北でプログラムを実施しました

8月7日から9日まで、4年ぶりに神奈川でリフレッシュプログラムを実施しました。神奈川に来てくれたのは、昨年福島・裏磐梯でのプログラムに参加してくれた福島市の子ども施設の小学生11人（男子8人・女子3人）と職員4人。低学年が多かったのですが、バスでの長旅をして神奈川まで来てくれました。本当にありがとう！

湯川町長をはじめとする山北のみなさまと豊かな自然は、変わらぬやさしさで迎え入れてくださり、最終日は横浜散策も楽しんだ後、無事に帰路につきました。とくに川遊びが大人気で、スイカ割りをした後のスイカを夢中でほおばり、町営温泉・ブナの湯では大はしゃぎしました。初日に園長先生がサプライズで登場しみんなビックリ！プログラムを楽しんでくれている愛くるしい子どもたちに大人たちは、なんと癒されたことか。

今年の夏は、猛暑・台風・コロナと人間の力ではあらがえない自然界の脅威にふりまわされました。猛暑への対策、台風6号が強雨だった場合の代替案の準備、そしてコロナ対策には参加者全員が抗原検査をしました。幸いにも各イベントの間は、たいした大雨にも襲われることなく2泊3日を過ごすことができました。2012年夏からスタートしたリフレッシュプログラムですが、山北という同じ場所、8月という同じ時期に実施しているプログラムを通して、気候変動の影響がこの10年の間に大きくなっていることを実感しています。

今回のプログラムでは、若いスタッフやこらっせユースの活躍で世代交代も顕著になりました。プログラムのスタート直前に重要な役割を担っているシニアスタッフが、体調不良や家族の入院で複数参加できなくなりましたが、若い世代が見事にその穴をうめてくれました。若い力と一緒に働けるのは幸せなことです。

振り返って現実に視線を移すと、300人以上の子ども甲状腺ガン患者がでながらガンの発症は原発事故のせいではないと主張する国と企業のひどさ、進まない気候変動対策、そして守られていない子ども・若者の人権。「フクシマを忘れない」というミッションをかかげたささやかな私たちの活動からも真実が垣間見え、子どもたち・若者たちの未来への大人の責任をあらためて感じます。

最後に、このプログラムを実施することができたのは、賛同してくださったみなさま、協力してくださったみなさま、そして多額な補助をくださったパルシステム、生活クラブ神奈川関係団体のみなさまのおかげと、深く感謝しております。

「福島子ども・こらっせ神奈川」事務局長 遠野はるひ

スケジュール

	午前	午後
1日目	バス移動	レクリエーション、 BBQ、花火
2日目	丹沢湖見学、 ダム広場で外遊び	川遊び、スイカ割り 温泉
3日目	横浜散策、中華街で食事	バス移動

リフレッシュプログラム（1日目 8/7）



子どもたちは福島市から6時間かけてお昼過ぎに山北の簗沢荘に到着。みんな、待っていたよ！最初にオリエンテーションを行い、全員で自己紹介をしました。



楽しかったことは
BBQです

湯川町長のお話し



BBQでは子ども達が火起こしや食材を切るなどの準備を手伝ってくれました。特に盛り上がったのはマシュマロを焼くこと。湯川山北町長も会いにきてくれました。BBQ終了後の花火では、夏を実感しました。



花火とかが楽しかった

リフレッシュプログラム（2日目 8/8）

丹沢湖では、丹沢湖記念館の小塚館長から三保ダムのお話を聞きました。



大人になったら
山北町にまた来る



ダム広場では、シャボン玉やボール、風船などで楽しく遊びました。風船にイラストを描いたり、特にシャボン玉が大人気でした。



お昼は皆で「みほ弁」を食べました。山菜の炊き込みご飯の上に、焼き鮭や味付き卵が乗り、大満足なお弁当でした。





プログラムの一番人気は川遊び。最初は川の浅瀬のほうで、そのうちだんだんと上流に進んでいき、泳いだり、飛び込みをしました。



川に飛び込んだことが楽しかった



スイカ割りは、見事命中させて喜んでいる子もいれば、割れなかったけど楽しそうにしている子、割れなくて本当に悔しがる子もいました。



スイカが美味しかった



町営温泉・ぶなの湯で、川遊びで冷えた体を温め、入浴後はアイスを食べました。



ぶなの湯も楽しかった

露天風呂が気持ちよかった



みんな、箒沢荘のごはんが大好き

リフレッシュプログラム（3日目 8/8）

横浜ではグループごとに分かれて、散策しました。等身大のガンダムを展示している特設会場では、外からでもガンダムが動く様子を見ることができました。



ガンダムがすごかった



氷川丸の中で子どもたちは大はしゃぎ。デッキから横浜の海や街並みを望みました。

マリンタワーからは横浜港が一望。床がガラス張りになっている所ではスリルを感じました。



横浜中華街ではアイスやいちごあめなどを楽しみ、お土産屋さんでショッピング。レストランでは中華料理を完食しました。食べすぎたかな。



中華街で買ったアイスが美味しかった

楽しい時間はあっという間に過ぎ、さよならの時です。また、会おうね！



スタディツアー (3/28~29)



1日目は子ども施設を訪問し、子どもたちと遊びました。2日目は放射線測定をしながらのスタディツアー。福島市内の渡利地区、川俣町を通り飯館村を訪れました。『**飯館村**』では除染作業が概ね完了したそうですが、除染作業現場ではフレコンバッグが大量に積まれていました。住む人が少ないせいかゴーストタウンのように感じられ、太陽光発電装置が目につきました。



震災遺構の『**浪江町立請戸小学校**』は、震災により大きな被害を受けましたが、全員が無事避難することができた奇跡の学校です。15メートルを超える津波が襲ってきたと考えるとゾッとしました。このような震災当時のままの姿を残している場所に初めて訪れ、地震の揺れの強さを改めて感じることができました。



太平洋を望む海岸線には防潮堤が建設されており、手前には『**数年前に植林されたマツの若木**』が並んでいました。若木はまだまだ小さく、一朝一夕では復興を実現することは不可能であるという現実を改めて感じました。遠く向こうに福島第一原子力発電所の煙突が見えました。近くに震災遺構の民家、放置された車があり、津波の威力に驚きました。

『東日本大震災・原子力災害伝承館』

は、常磐線双葉駅から2km程の場所にあり、復興の過程を収集・保存・研究し、世界に継承・発信していくことを理念としています。双葉町の中心部にかかげられていた「原子力明るい未来のエネルギー」の看板は、伝承館に展示されています。ある語り部さんは「原発は、幼いころからあったごく当たり前の施設」と言っていました。



『大熊町、双葉町』は福島第一原子力発電所が位置する場所。大野駅に向かう途中の林では車内で放射線測定器を用いると3.931 μ Sv/hを計測しました。臭いや色といった自覚ができない放射線は測定器に頼ることしかできないことを実感しました。

『富岡町の夜ノ森地

区』では、ちょうど2日前に桜の満開宣言があり、見頃を迎えていました。しかし、避難指示がでている地域はロープや看板で通行止めとされ、人が入れません。原発の被害は続いているのにも関わらず、震災の記憶は忘れてしまっていたと反省しました。



『とみおかアーカイブミュージアム』

では、富岡町の歴史、東日本大震災と原発災害について学びました。時間が止まってしまった時計は、普段の生活が一瞬にして奪われてしまったことを分らせてくれます。地震直後に町民に避難を呼びかけた警察官2人を乗せたパトカーが印象的で、彼らの勇氣に心を動かされました。



1/29オンライン講演会(講師:江藤大裕さん)

福島市でこども食堂「よしいだキッチン」を運営している江藤大裕さんをお迎えして第3回目のオンライン講演会を開催。参加者は50名でした。タイトルは「福島からの報告：子どもたちをつながりて包み込むまちへ」、コーディネーターは加藤彰彦さん、司会はこらっせユースの佐藤聡さんが担当しました。

江藤さんが活動している「ビーンズふくしま」は、1999年に不登校のこどものためにフリースクールを設立したことからスタートし、子ども・若者支援のさまざまな活動を行っている団体で、江藤さんは若者の居場所づくりに従事しながら、2018年に「よしいだキッチン」を立ち上げ、福島市の子ども食堂ネットワークを組織してきました。



講演では「ビーンズふくしま」の歴史、「よしいだキッチン」の活動の趣旨が報告され、コロナ禍での取り組みが紹介されました。困っている子どものサインを見逃さないことが大事だというお話は印象に残りました。また、子ども食堂は地域のなかで子どもの居場所になることを目指すとして、地域の人たちを巻き込んだ活動へと発展させていく展望が語られました。

講演会の動画は、こらっせのウェブサイトで見られます。 <http://blog1.korasse-kanagawa.org/>

22/12/13 省庁交渉

県内の保養グループ「いのち・神奈川」の仲間と共に「省庁交渉」を行いました。5省庁（経産省・文科省・厚生労働省・環境省・復興庁）9人が対応、「いのち・神奈川」は13人参加しました。



私たちは、「ふくしまっ子自然体験事業等の実績と予算」、「子ども達の健康状態」、「大人と子供達の事故前と事故後のがんや心疾患の発症数」、「福島県内外の事故当時18歳以下の甲状腺がんの発症数」などに関する資料のほか、福島県内のこども達の甲状腺がんの検診や実情についての説明を要望しました。

しかし、環境省からは詳細なデータが出されず、厚労省と環境省の甲状腺がんの数値に違いがあるなど誠意のある回答とは言えませんでした。

各団体からは「チェルノブイリの初期被曝検査数は35万人、日本はたったの1080人、それもずさんな検査だった。被曝と甲状腺がんの因果関係がないというのはあまりに国は無責任」、「ウクライナやベラルーシでは、25年間検診を継続し3週間の長期保養も国がやっている」など多くの意見が出されました。

5/14キックオフミーティング（講師:井戸謙一さん）

今回のオンライン講演会は、講師に弁護士の井戸謙一さんをお招きしました。タイトルは「子ども甲状腺がんは、原発事故のせいではないの？『311子ども甲状腺がん裁判』が問いかけること」です。コーディネーターは加藤彰彦さん、司会は事務局の清水雅大さんが担い、参加者は80人でした。



井戸さんご自身が弁護団長をされている「311子ども甲状腺がん裁判」が主題で、前提知識として被ばくと甲状腺がんの関係性が丁寧に説明され、それから福島の小児甲状腺がんの多発状況と原発事故が関係ないとする否定論の論拠に一つ一つ説得的に反証が加えられました。

そして、講演の中で最も印象深かったのは、やはりこの裁判に原告として臨んでいる若者たちが置かれた具体的な状況やひとりひとりの様々な思いが、弁護団長の井戸さんの口から伝えられたことでした。

「原発安全神話から被ばく安全神話へ」という井戸さんの指摘は正鵠を射たものです。どのようなプロパガンダによっても否定できない現実があり、まさに「311子ども甲状腺がん裁判」はこの現実を社会の中で可視化させる画期的な意義があります。

講演会の動画は、こらっせのウェブサイトで見られます。 <http://blog1.korasse-kanagawa.org/>

311子ども甲状腺がん裁判

22年5月26日に始まった裁判は、小児甲状腺がんを発症した若者6名（現在1名増）の勇気ある必死の訴えによって法廷で闘われていて、すでに第6回まで口頭弁論が開かれました。この若者達は、甲状腺の摘出手術を受けた後も再発や肺への転移などを病み、辛いアイソトープ治療を受けた高校生もいます。

第1回裁判では小法廷のわずか27席しかない傍聴席に226名もの人々が駆けつけました。「こらっせ」も第1回目からこの裁判にかかわり賛同団体となっています。第3回目、第5回目の裁判では、スタッフの一人が傍聴できました。原告の意見陳述は涙無くして、聞くことは出来なかったそうです。



希望と可能性に満ちた未来が待っているはずの若者達が、癌の治療と再発の恐怖に怯えながら生きていかねばならないその過酷さ。何より医師から最初に告げられた「これは原発事故とは関係ありませんから」というこの一言。日本政府は「年20ミリシーベルト以下は健康被害がない」という方針を打ち出し、それゆえに子ども甲状腺がんが被曝のせいであるとは認めないのです。

ご支援・ご協力をいただいた方々

阿部知子事務所／石田浩二／伊藤大介／稲垣博美／WE21ジャパン／WE21ジャパンいそご／WE21ジャパンこうほく／WE21ジャパンさかえ／WE21ジャパンとつか／WE21ジャパン藤沢／WE21ジャパンよこすか／江藤大裕／蛭名清悦／加藤彰彦／かながわ生き生き市民基金／神奈川県教職員組合／神奈川県高等学校教職員組合／神奈川ネットワーク運動／かながわボランティア活動推進基金21／金澤あゆみ／共和のもり／小塚剛夫／阪井英太／坂本みや／佐藤直美／311甲状腺がん子ども支援ネットワーク／杉浦幹／杉山照枝／鈴木真理／鈴木桃子／生活クラブ生活協同組合・神奈川／丹沢湖記念館／千村和司／富田陽子／とれたて山ちゃん／榎葉町社会福祉協議会／パルシステム神奈川／パルシステム生活協同組合連合会／ビートルズのチカラ実行委員会／福島原発かながわ訴訟を支援する会／福島地域福祉ネットワーク会議／辺見妙子／箒沢荘／山北町観光協会／山北町教育委員会／山北町役場／山崎誠事務所／湯川裕司／吉野裕之／ラッシュジャパン合同会社（五十音順）

賛同団体/個人

青木愛美／荒川淳／安正幸／石下直子／井出都／伊藤大介／岩田容子／WE21ジャパンつるみ／WE21ジャパンとつか／WE21ジャパン藤沢／上野勝／梅田悦子／蛭谷康一／MD女子会／大野圭子／大治朋子／奥村美知子／小津みち子／小山千鶴子／加藤彰彦／金栗聡／金澤あゆみ／金子文夫／鎌田広将／亀井君枝／木村早苗／國井哲男／久保新一／黒澤知弘／高力英夫／小海憲子／五藤のぶ枝／児玉繁信／小林伸行／坂上みつる／坂上美代子／坂巻フミエ／佐々木紀子／笹野和恵／佐藤聡／佐藤公彦／佐藤茂伸／佐藤みつ／佐藤令子／佐野清文／地代所達也／清水雅大／篠崎栄子／神高教シニア運動／杉田恵子／杉山照枝／鈴木江郎／首藤天信／ストップブルトニウム神奈川連絡会／高野克美／高橋晃／高橋美智子／高橋真知子／高橋祥夫／竹田邦明／田崎政子／立岡英宏／田沼時代／千野紀美子／千村和司／塚本鉄男／柘植敬子／露木順一／鶴田賀陽子／鉄地河原清美／遠野はるひ／富山基録／永瀬裕子／中村潔／中村光一／中村信子／錦織順子／沼里和幸／沼沢静江／野口いづみ／野田治美／蜂谷隆／日浦幸子／東祐司／東日本大震災・復興支援まつり実行委員会／ビートルズのチカラ実行委員会／避難者の会・かながわサポーターズ／藤井あや子／福島健太郎／藤島政彦／藤見睦彦／藤本泰成／古河和男／古川文乃／風呂橋修／前田正裕／松田正／松原ノリ子／松本明子／真矢公子／三輪智恵美／向田映子／武藤一羊／村田隆／村田弘／村田由美子／森幸子／八島忠義／矢作正／山際正道／山田勇／山田俊子／山中悦子／山西道子／山本明德／山本智美／ユニオンヨコスカ／横山満里奈／横山道史／吉川千恵子／吉田明（町田）／吉田明（横浜）／吉田哲四郎／W.Co花もめん／W.Co森のはらっぱ／渡辺郁江（五十音順、名前不掲載1人）

会計報告（2023年4月1日～8月31日） （単位：円）

収 入	
前期からの繰越金	286,864
寄附金及び賛同金	646,000
助成金（パルシステム協同組合）	800,000
合 計	1,732,864
支 出	
団体運営管理費（通信費、交通費、事務費等）	113,877
講演会・学習会	89,915
神奈川リフレッシュプログラム	976,390
子ども甲状腺がんネットワーク支援	12,000
合 計	1,192,182
下期への繰越金	540,682

編集後記

神奈川でのプログラムは、今まで蓄積されてきたノウハウを生かした面もあれば、新しいメンバーや取り組みもあり、試行錯誤も必要でした。子ども達に大きな事故がなく終わって、一安心でした。彼らが大きくなった時に、神奈川に來たことを思い出してくれると嬉しいです。

事務局 横山満里奈

スタッフ

- こらっせユース
會田結衣／井手美由希／神崎文花／河野みずき／小林真子／近藤俊輔／下平啓介／瀬戸直美／醍醐由珠
- 事務局スタッフ
青木愛美／金子文夫／小林伸行／佐藤聡／清水雅大／首藤天信／高橋おいどん／遠野はるひ／錦織順子／蜂谷隆／藤井あや子／山際正道／横山満里奈

賛同人を募集しています！

賛同金(一口) 個人3,000円 団体10,000円
ご賛同頂ける方は、振込用紙に住所・電話番号・メールアドレスの記載をお願い致します。報告書、ニュースレターをお送りします。

振込先 郵便振替

口座名称 福島子ども・こらっせ神奈川

口座番号 00270-7-101155



2023年報告書

発行日 2023年9月16日

編集・発行 「福島子ども・こらっせ神奈川」

TEL:045-353-9008 FAX:045-353-9998

E-mail : info@korasse-kanagawa.org

WEB : <http://korasse-kanagawa.org/>

表紙デザイン 高橋晃 制作 事務局



WEB